

家庭で見守る インターネット・SNS 利用

令和6年度児童・生徒のインターネット利用状況調査

■インターネットでの知らない人とのやりとり（学校種別）

学校種	(n)	インターネットでの知らない人とのやりとりの割合 (%)					
		① 「いいね」ボタンを押したことがある	② 感想・コメントを書き込んだことがある	③ DM（ダイレクトメッセージ）等をやりとりしたことがある	④ 直接会ったことがある	⑤ やりとりしたことはない	⑥ わからない
全体	11,434	39.6	18.9	12.0	3.3	47.9	13.3
小学校	7,153	29.0	11.7	4.2	1.4	56.9	16.5
中学校	2,398	62.2	33.2	23.2	4.4	31.8	5.8
高等学校	1,282	65.8	35.5	36.7	12.5	23.8	5.1
特別支援学校	601	19.0	11.3	6.5	1.8	57.6	23.3

※網掛けは各学校種で最も割合の高いものを示している。

中高生になるとインターネットで知り合った人と直接会っていたり、DM等をやりとりした経験があったりなど、保護者が把握困難なやりとりをしている実態があります。また、やりとりのきっかけは「ゲームの話」が最も高い割合となっています。



■やりとりのきっかけは、どのような話題か（学校種別）

学校種	(n)	やりとりのきっかけは、どのような話題かの割合 (%)							
		① 話	② 芸能人やユーチューバー等の話	③ ファッションやブランドの話	④ アニメや漫画の話	⑤ 部活や習いごとの話	⑥ 受験や試験等の勉強の話	⑦ ゲーム（スマホ用・家庭用・パソコン・ゲームセンター）の話	⑧ 友だち等募集の話
全体	1,492	26.6	6.3	26.5	16.9	10.9	41.6	14.5	10.1
小学校	384	24.2	5.7	19.3	10.7	8.6	45.6	18.2	9.6
中学校	569	26.7	5.3	29.3	27.2	11.2	39.2	13.9	8.6
高等学校	494	27.1	8.1	29.1	10.3	12.8	41.9	12.1	11.1
特別支援学校	45	40.0	4.4	24.4	11.1	4.4	33.3	17.8	20.0

※網掛けは各学校種で最も割合の高いものを示している。

SNSに起因する重要犯罪の被害児童は5年間で4倍に増加しています

※出所 総務省 上手にネットと付き合おう



闇バイト



個人情報流出



なりすまし



人間関係のトラブル



インターネットやSNSの利用については、ご家庭におけるルール作りが大切です。教育庁では「情報モラル・情報セキュリティ」に関する教材を作成しています。本教材を活用して、お子様と一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

安全なインターネット・SNS利用についてお子様と一緒に考えるために

教材：ケータイ・スマホトラブル分類表を活用して、お子様と一緒に話しあってみましょう

1 長時間利用



ゲームや動画、コミュニケーションにかかわる時間を使いすぎたり、「ながらスマホ」をする。

主に **A**

2 高額課金



たくさんのお金を使って、ゲームのアイテムなどを購入してしまう。

主に **A**

3 不適切サイトの閲覧



性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを閲覧する。

主に **B**

4 出会い



SNSで知らない人から会うことを求められたり、自分の画像を送ることを求められる。

主に **A** と **B**

5 著作権の侵害



無許可の映像や音楽のアップロードや、違法と知りながらの音楽や

主に **A** と **C**

6 不適切情報の発信



悪ふざけの写真やデマなどをSNSで発信する。

主に **C**

7 個人情報の投稿



SNSへのテキストや写真などの投稿から、個人を特定できる情報を流出させる。

主に **C**

8 悪口・いじり



グループトークでいじりや無視をしたり、短文の意味の取り違いによって誤解してしまう。

主に **C**

※画像をクリックするとweb教材にリンクします



「GIGAワークブックとうきょう」や「考えよう！デジタルリテラシー」など御家庭でも使用できる教材を多数掲載しています。ぜひ御活用ください。

(参考) 家庭で見守る子供のネット・スマホ利用 (生活文化局)

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/document/s/d/seikatubunka/net_hogosya2021

困ったときは...



活用型情報モラル教材



一人1台端末で操作しながら学習します



事例について考え話し合いながら学習します (全9事例)

活用型情報モラル教材



とらきょう



保護者の方へ

このGIGAワークブックでは、1人1台の端末を上手に活用するために、基本となる情報活用能力（情報モラルを含む）を身に付けることができます。

家庭でも、端末の上手な使い方や端末を使うためのルールについて、ぜひ話し合いをしてください。

ケータイ・スマホトラブル分類表

現在のネットに関するトラブルは、大きく以下のように分類することができます。

1 長時間利用



ゲームや動画、コミュニケーションにかかわる時間を使いすぎたり、「ながらスマホ」をする。

主に **A**

2 高額課金



たくさんのお金を使って、ゲームのアイテムなどを購入してしまう。

主に **A**

3 不適切サイトの閲覧



性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを閲覧する。

主に **B**

4 出会い



SNS で知らない人から会うことを求められたり、自分の画像を送ることを求められる。

主に **A** と **B**

5 著作権の侵害



無許可の映像や音楽のアップロードや、違法と知りながらの音楽や

主に **A** と **C**

6 不適切情報の発信



悪ふざけの写真やデマなどを SNS で発信する。

主に **C**

7 個人情報の投稿



SNS へのテキストや写真などの投稿から、個人を特定できる情報を流出させる。

主に **C**

8 悪口・いじり



グループトークでいじりや無視をしたり、短文の意味の取り違いによって誤解してしまう。

主に **C**

① お子様と一緒に、起きやすいと思うトラブルにチェックを付けながら話し合ってみましょう。

② アプリやフィルタリングの対策を考えてみましょう。
大きく3つの対策が重要です。

- A** 家庭のルールを考えよう…………… P165～167へ
- B** フィルタリングやアプリの設定…………… P168～169へ
- C** インターネットにおけるコミュニケーションの特性…………… P170へ

主体的に考えることを目指した「ルールの工夫」

次のルールは何が問題でしょうか。

ネットの
「使いすぎ」に
気を付けよう

スマホは
「夜遅い時間」には
使わない

ネットで
「たくさん」お金を
使わない

「」の中の表現にあいまいさがあるため、親と子どもとで基準が異なる場合があります。ルールを決めるときは、あいまいな表現をさけましょう。

「スマホは夜10時までしか使わない」というルールを破ってしまう子どもがいたら、どのように声を掛けますか。

A

ルールを破ったことを
叱る

B

どのようにしたら
ルールを守れるかを
一緒に考える

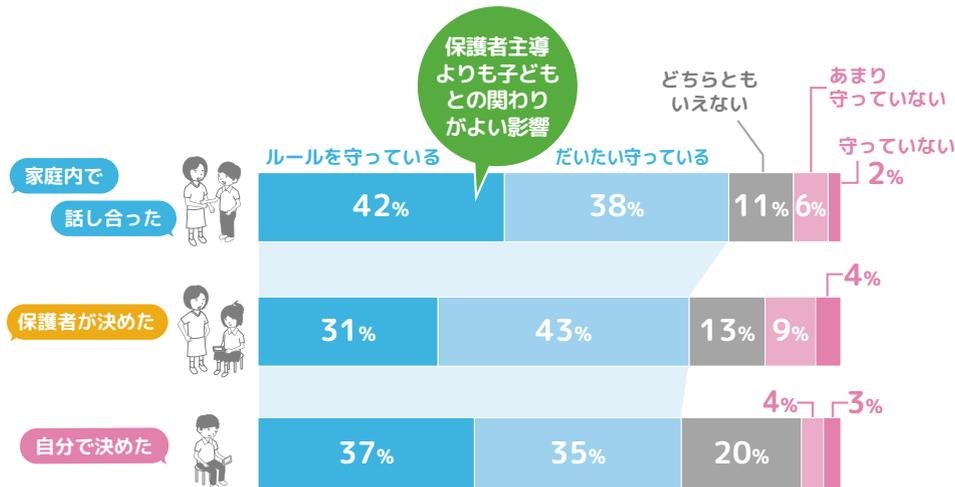
Aのような「制限」によるコントロールから、Bのようにお子様と一緒に対話をしながら「主体的なルールづくり」をするようにしましょう。

ルールの決め方と遵守の関係

高校生を対象とした調査によると、保護者主導でルールをつくったときより、子どもと一緒にルールをつくったときのほうが、子どもがルールを守る確率が高いことが分かっています。

「ネットを使い過ぎない」というルールが守られない理由

子どもは、「自分はネットやゲームを使いすぎている」と考える傾向があるため、「使い過ぎない」というルールは守られなくなりがちです。



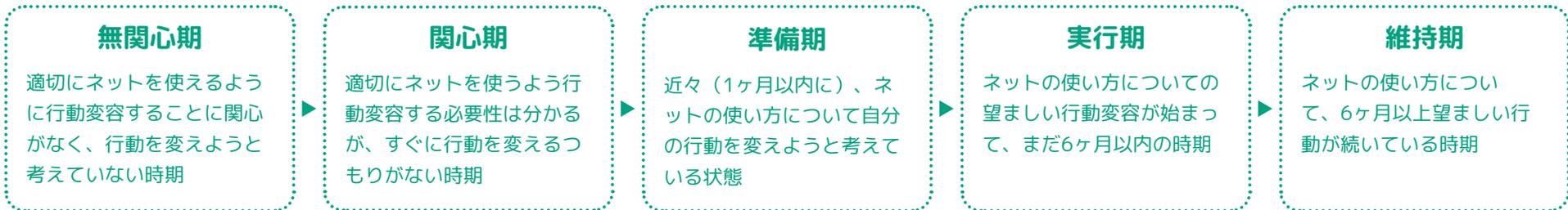
出典：LINEみらい財団（2018）「青少年のネット利用実態把握を目的とした調査」

「使い過ぎ」から抜け出すための5ステップ（ステージ）

下の5つのステップ（ステージ）に沿って声を掛け、行動変容を促しましょう。

1日のうちにどのくらいネットを利用しているか、子どもに具体的に書き出させるなどして、「長時間使い過ぎていること」、「他者よりも長く使っていること」を本人に自覚させることが、ネット依存傾向の予防・改善のための行動変容のきっかけとして重要です。

ネット依存傾向から抜け出す段階



ネットを使い過ぎていないか、お子様と確認してみましょう

以下の質問票で、8項目のうち5項目以上当てはまれば「病的使用者」と判定されます。

- ① ネットを利用し、SNSやゲーム、ショッピングなどをするのを思い出したり、次の利用が楽しみになるなど、ネットに夢中になっている。
- ② 満足するには、ネットの利用時間をどんどん長くしていかなければならない。
- ③ 利用時間を減らしたり、やめようとしたりしても、うまくいかないことが繰り返しある。
- ④ ネットの利用時間を減らそうとすると、落ち着かなくなったり、不機嫌になったり、落ち込んだり、いらいらしたりする。
- ⑤ ネットを利用した活動の時間が、利用する前に予定していた時間より長くなる。
- ⑥ ネットの利用のせいで、大切な人との関係を危うくしたり、勉強の機会を失ったりする。
- ⑦ ネットに夢中になりすぎたせいで困ったことが起きても、ごまかすためにうそをつく。
- ⑧ 困っていることや不快なことから逃れるためにネットを使う。

スマートフォン・端末の保護者向け機能

スクリーンタイム

iPhone/iPad向け



© Apple Inc.

「スクリーンタイム」を使うことによって、iPhone、iPad、iPod touch でどのように時間を費やしているのかリアルタイムでまとめたレポートを確認し、管理しておきたいものについては制限を設けることができます。

親子で使い方を約束して、そのとおりに使えているかを確認しましょう。



iPhone、iPad、iPod touch のスクリーンタイムの設定方法 (保護者向け) — Appleサポート

<https://www.youtube.com/watch?v=6KbTXIO2vU4>

ファミリーリンク

Android向け



Googleが提供する無料のペアレンタルコントロールのアプリです。子どもと保護者の携帯端末にインストールすることで以下のことが可能になります。

- 子どものアプリ利用を管理
- 子どもの利用時間を管理
- 子どもの位置情報を確認

※子ども端末はAndroid Lollipop (5.1) 以降を搭載したAndroid スマートフォン、保護者端末はAndroid Lollipop (5.0) 以降を搭載したAndroid スマートフォンと、iOS 9 以降を搭載した iPhone、iPad でファミリーリンクを利用することができます。

YouTube Kids Android・iPhone/iPad向け



YouTube Kids は、13歳未満の子どもがより簡単に楽しくYouTubeを視聴できるアプリです。プロフィールを作成することで、視聴できるコンテンツ選択や、視聴時間を制限するタイマーの設定をすることができます。また適切なデジタル習慣を身に付けるために役立つ情報も提供しています。

Digital Wellbeing Android向け



毎日のスマートフォンの利用習慣を把握し、オフラインで過ごす時間を作る機能です。

- その日のスマートフォンの使用状況がグラフに表示され、自分の使い方を振り返ることができます。グラフをタップすることで、詳細を確認することができます。
- 勉強などに集中できるよう、気が散る原因となるアプリをワンタップで一時停止することができます。
- アプリの1日の利用時間の上限を設定することができます。動画の見過ぎなどに気付くことができます。

フィルタリングについて

犯罪・トラブルに巻き込まれないため、フィルタリングを設定することが大切です。スクリーンタイムやファミリーリンクにはフィルタリング機能があります。また下記のようなフィルタリング用アプリもあります。携帯電話会社の販売店に行き、最適なフィルタリングを設定してもらったり、相談したりしましょう。

あんしんフィルター for (キャリア名、ブランド名)



平成29年2月に、携帯電話事業者が提供するスマートフォン等のフィルタリングサービスのアプリアイコンが、統一されました。

iPhone、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。Google、Google Classroom、Android、ファミリーリンク、YouTube、YouTube Kids、Digital Wellbeing は Google LLC の商標です。

8 悪口・いじり

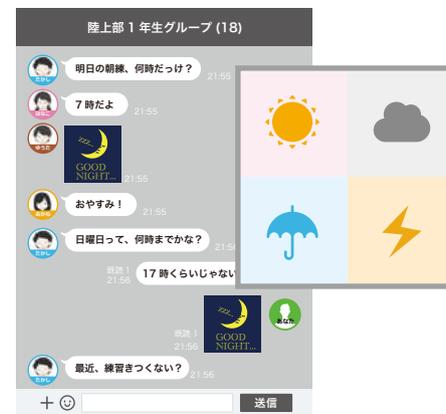


相手の
「イヤなこと」を
しないようにしましょう

というルールや指導で大丈夫？

「イヤなこと」の感覚が人によってズレやすく、ネットの特性によって、ズレがより大きくなります。

3つの視点からその内容を見てみましょう。



1 感覚のズレ

人によって「イヤだな」と感じる言葉には違いがあります。自分にとってイヤな言葉が、友達のイヤな言葉と同じとは限りません。

2 ネットの特性

普段、「真面目だね」という言葉を解釈するときには、顔の表情やシチュエーション、トーンなどから、それがよい言葉なのか悪い言葉なのかを判断しています。しかし、メール等のテキストコミュニケーションの場合には、感情が伝わりにくく、それがよい言葉なのか悪い言葉なのかを判断するのが難しく、誤解が生じやすくなります。

3 「リスクの見積り」によるズレ

子どもたちは、「何が危険か」は分かっているのですが、「どのくらい危険か」というリスクの見積りがズレやすく、「このくらいは大丈夫だろう」と思うことにより、トラブルにつながってしまうことがよくあります。